

あーあーあ「憧れのハワイ航路」 行って来ました。ハワイ旅行、オアフ島とハワイ島を巡りました写真で綴るハワイの旅です。今頃の高校は凄いです。修学旅行でハワイに沢山の生徒諸君が来ていました。日系人が多いし、観光客は殆どが日本人でした。日本のハワイ州かと錯覚するほどでした。英語がしゃべれんでも不自由なし、これでも外国か？でも大阪から飛行機で7時間かけて来たのでやはり海外であろう。偏西風の関係で帰りは10時間かかった。



1 2 月 1 日 2 1 時 1 5 分 関西国際空港からホノルルへ

飛行機の客にハクション叔父さんがいた。1分毎に大きな声でハクションが繰り返されるのである。最初はみんな笑っていたが、だんだんと笑えなくなり、気の毒だとは思いますが、皆んなイライラしてきて、笑いは怒りへと変化してきた。さりとて、叔父さんも如何することもできず、客室乗務員も打つ手はなく、眠りに中々つけない乗客はストレスの塊となっていた。ストレス解消の海外旅行がストレスの塊となるとは、誰一人想像できなかつたことである。アレルギーか、それとも叔父さんがあまりにも敏感な鼻、喉の持ち主だったのかは不明である。それでも乗客は疲れ果てて眠りに就いたのである。機内食が配られるまで、何とか皆んな眠ったのである。……

日本とハワイの時差は -19時間 9時30分ホノルル到着

オアフ島周遊のオープン二階建てバスに乗った。最初はゆっくりと観光していたら、突然のスコールバスの中でみんな傘をさした。テントのような屋根からは滝のように雨がザーザーと降ってきた。こんなスコールの中をバスが走るのは非常に珍しいと運転手が言っていた。バスの中を川が流れていた。珍しい体験ができた。



ワイキキビーチはレジャー客でいっぱい。何とかしてここで泳いで帰りたい。



ホテルにはプールもあったが泳ぐ時間はなかった。やはり、ハワイならワイキキビーチで泳ぎたい。夜は食べ放題のバイキング料理、韓国人が経営する日本食の店だった。カニ、マグロのニギリは美味しかった。



頭の赤いかわいい鳥が鳩の集団とともにパンくずを食べにやってきた。小鳥の名前は分からないが綺麗なかわいい小鳥だった。



エルビスプレスリーの映画「ブルーハワイ」のロケ現場を見学、青春時代ワクワクして見た映画を思い出した。随分と時間が過ぎたなあ・・・



オアフ島—モアナルア・ガーデン、そうです、日本人しか行かないよとガイドも言う公園です。日立のCMに登場した「この木、何の木、気になる木～」の巨木がある。ハワイではこの木は珍しくもなんともない、そこらじゅうに、ゴマンとある木である。ハワイは常夏で水分も充分なので植物は日本より5～6年成長が早いという。植物のシダなども馬鹿でかいものばかりである。木の枝から根が出てくる植物には驚いた。野生のランは綺麗だった。



12月7日は真珠湾攻撃の日である。真珠湾の海岸から向こうに艦船ミズリーも見えた。



多くの米兵士を乗せて沈没した戦艦アリゾナ、今なお健在で活躍している戦艦ミズリー、何百人のゼロ戦に乗った特攻隊員も最新鋭の大砲、機関銃で全て撃ち落とされた。戦艦ミズリーに特攻隊員を鍛えた1人の教官がゼロ戦闘機で最後に突っ込んだ。横っ腹に命中した。しかし数千発の弾丸を受けて上半身と下半身が真っ二つ、そんな彼を海中に捨てようとした兵士を艦長が止め、丁重に甲板で葬儀をし、兵士としての勇敢さを称賛した。アメリカ留学で米国の総合力をよく知っていた山本五十六は真珠湾奇襲攻撃、短期決戦しかない、と突っ込んだが、軍部上層部は長期の戦争に突入し敗戦、どん底の生活、敗戦処理、戦後復興、経済成長、民主主義、自由、平和、・・・

今の日本は、・・・それなりにいろいろと考えさせられた真珠湾であった。

12月3日にはホノルル空港からハワイアン航空でハワイ島への旅である。



日本人が金と時間をかけて作った日本庭園である。常陸宮様が来園し、植樹したという松が3番目の写真である。常陸宮様も小柄だからか、手植えの松も小柄であった。

ハワイの多くの部族を制圧しハワイを統一した最初の王様、カメハメハ大王像である。多くの正室と側室がいて、数十人の子供がいたという大王は何処に葬られているかも今もって分からないという。金のマントがよく似合う大王である。全く大王とは関係ないが、ボロボロの車を洗っていたお母さんの足の長いこと、健康美そのものであった。



ハワイ島のアカカ滝、ハワイで最も美しいと言われる高低差126mの滝、熱帯植物が生い茂るアカカ滝州立公園内にある。そして有名な活火山、キラウエア火山、世界遺産に登録されている地球上で最も活発な火山。今回は火は上がっていなかった。



ハワイ島からオアフ島にハワイアン航空で帰ってきた。

12月4日はオアフ島で アトランティス・サブマリン、ワイキキ沖の水深36mの海底を世界最大の旅客用潜水艦の窓から眺めた。海底に沈められた米海軍のタンカーや航空機の残骸に群がる魚群である。熱帯魚もサンゴ礁の中を泳いでいた。



海上ではサーフィンを楽しんでいる人。浮きわで泳いでる叔父さん、水上スキーしている若者などいろいろ楽しんでいる人達がいる。ハワイの学校は1年の半分しか勉強しないらしい。夏休み2ヵ月、冬休み2ヵ月、春、秋、休みそれぞれ1ヵ月、のんびりしてるよ。それでも生活できるから幸せだと言っていた。



潜水艦の世話をしてくれた日焼けしたハワイ美人。船、海から見たダイヤモンドヘッドである。30万年前、サンゴ礁だったところが噴火し、海水もろともサンゴ礁の石灰質を溶かし吹き飛んでしまったもの。石灰質が固まってキラキラ光る方解石となり、これを見た英国人がダイヤモンドと勘違いしてつけた名前だそうです。標高は232m、西はワイキキの街からパールハーバーまで、東はハナウマ湾まで見渡せる。



ワイキキビーチでポーズをとるグラビア嬢、浜辺では腹の出た叔父さんが甲羅干し、家族や観光客でビーチはいっぱい。遂に念願のワイキキビーチでの水泳に挑戦した。常夏のハワイとはいえちょっと寒い感じだった。でも念願は達成した。あーあ満足・・・



巨大ショッピングセンター「アラモアナ・センター」6万坪の敷地に5つのデパートや一流ブランドブティック、レストラン、雑貨店など250店舗が集まっている。今はハワイの観光スポットにもなっている。そのイベントステージではフラダンスショーが開催されていた。本場のフラダンスが見れたし、クリスマス時期でクリスマスソングでのフラダンスを見れたのはラッキーだった。フラダンサーと1枚パチリ・・・食事は「アラモアナ・ショッピング・センター」内で、日本食、寿司、うどん、ソバ・・・など何でも有りです。凄い人、みんなパクついている。



コーヒーもビールのジョッキのようなカップに入れてくれる。
何でも大きい、よく食べるわ、私の胃袋では付いていけない。・・・



何処にでもあるのが、ABC ストアである。大抵のものは、ここで間に合う。ビール、ジュース、サンドイッチ、からTシャツ、アロハシャツ、浮き袋、などいろいろある。
楽しいハワイ旅行も終わり、買ったばかりのアロハシャツを着て、ホノルル空港から関西空港までハワイアン航空で10時間の帰路についた。飛行機の中でええかっこしてアロハのままでいたら、眠ってしまい、気が付いたら鼻水が出る、常夏のハワイに行って、風邪を引いてしまった。お粗末極まるハワイ旅行でした。最後までご覧いただきましてありがとうございました。当人になり替わりまして熱く御礼をもうしあげます。RSK OB 高谷 昇 NOBORU TAKAYA 2013.12.15.



この豪華な車に2人だけ乗って、空港⇄ホテルの送り迎え、少し富豪になった気分・・・—(6)—